



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 巴波川 L = 800m 栃木市 <small>だいちょう</small> 大町地先 ~ <small>かわらだまち</small> 川原田町地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

事業の概要

【現況】

目標事業期間 (変更前)	平成22年度～令和15年度 (平成22年度～令和9年度)	
事業経過	平成22年度	事業化
	平成22年度	用地着手
	平成28年度	工事着手
	令和元年度	事業再評価
全体事業費 [うち用地補償費]	27.0 (25.6) 億円 [16.9 (16.7) 億円] ※ () は前回計画時	
事業延長 [うち整備済延長]	L = 800m [L = 115m]	
進捗率	基準年次：【令和6年度末時点】	
		費用 進捗率
	既投資事業費	9.3億円 34%
	[うち用地補償費	4.7億円 28%]

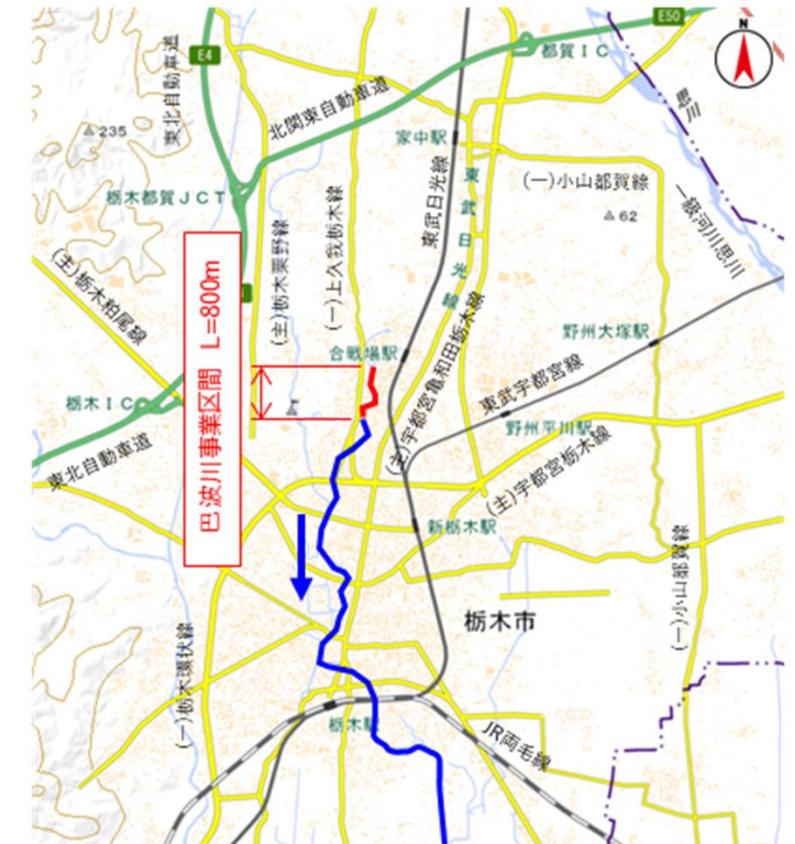
【目的】

一級河川巴波川は、その源を栃木市西方町本城地先に発し、栃木市市街地を貫流した後、渡良瀬遊水地に流入する河川である。

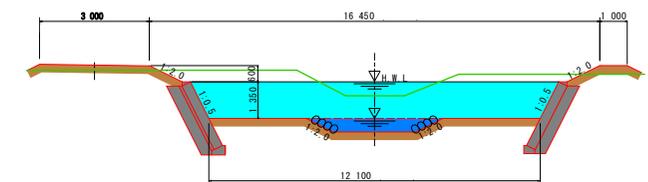
本事業区間は、県道栃木環状線の北部に位置し、前原橋下流（栃木市大町）から、一級河川上流端（栃木市川原田町）までの区間であり、市街化が進展してきている地域であるが、河道断面が狭小であり、流下能力が不足しているため、豪雨時には、家屋や農地等に浸水被害が生じている。

このため、本事業は、掘削や築堤等にあわせて遊水地を整備することにより氾濫を防止し、被害の解消を図ることを目的としている。

【事業概要図】



【標準横断面図】



出水状況
(平成27年関東・東北豪雨)

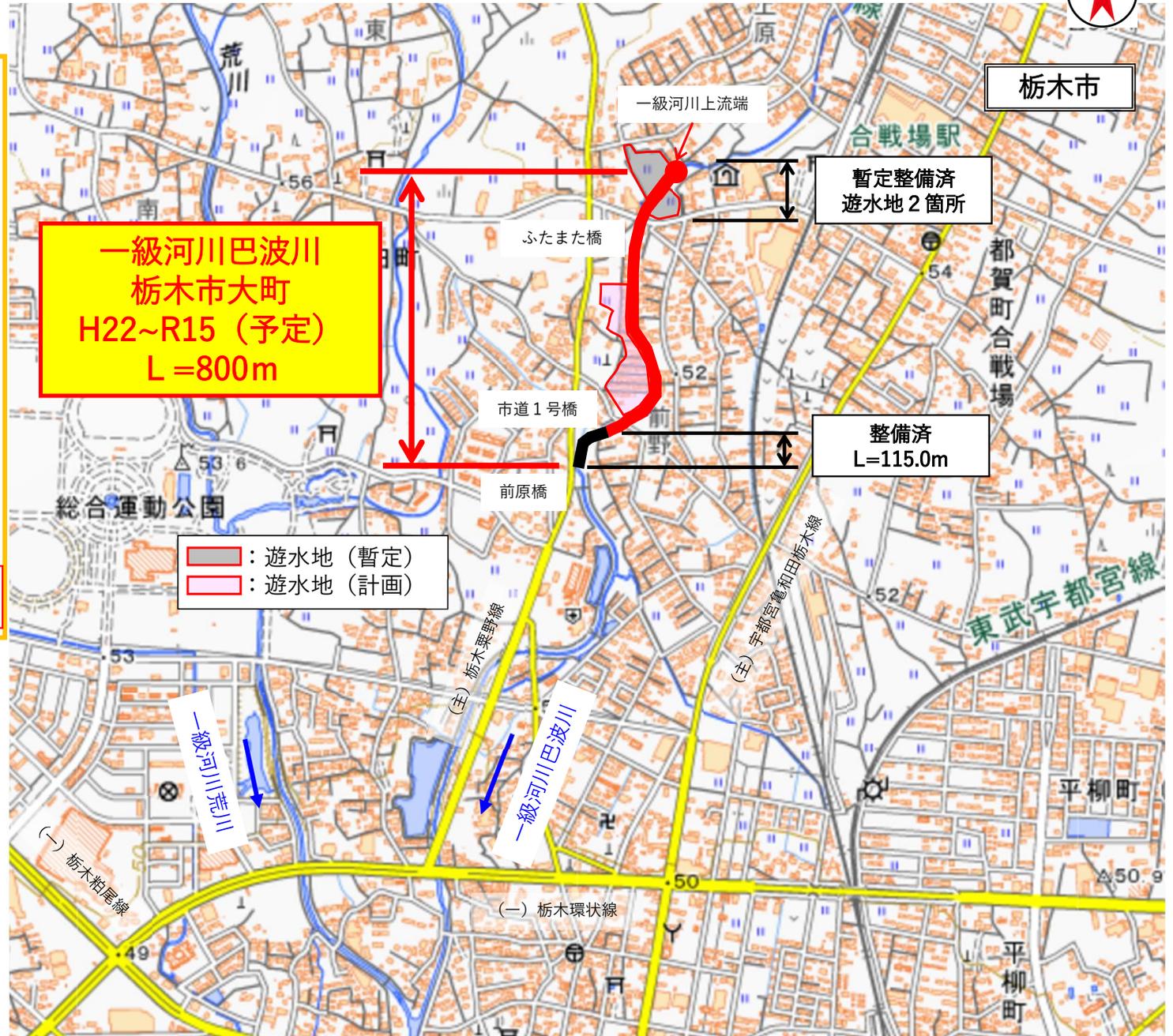


— 改修前の横断面
— 改修後の横断面

- 計画規模：1/5確率
- 計画流量：30m³/s
- 計画勾配：1/320

事業の概要

【箇所概要】



凡例	
事業箇所	
事業済箇所	

II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・ 事業期間の見直し
令和9年度 ⇒ 令和15年度
- ・ 総事業費の見直し
25.6億円 ⇒ 27.0億円

【全体事業費の見直し】

前回計画
(R1年度)

今回計画

	事業費	25.6億円	⇒	27.0億円 (+ 1.4億円)
内	工事費	8.9億円	⇒	10.1億円 (+ 1.2億円)
訳	用地補償費	16.7億円	⇒	16.9億円 (+ 0.2億円)

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B/C	総便益(B)	総費用(C)
(1)事業全体	7.3	186.7億円	25.6億円
(2)残事業	5.3	78.3億円	14.7億円

2 事業の整備効果等

- ・ 計画規模 1 / 5 の降雨で想定される宅地や道路、農地の浸水被害が解消される。
- ・ 河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際に植生が繁茂できるように配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境の多様性に配慮する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和6年度末時点

1 事業の進捗状況

- 全体事業進捗率 34%
- 用地 28%
- 工事 46%

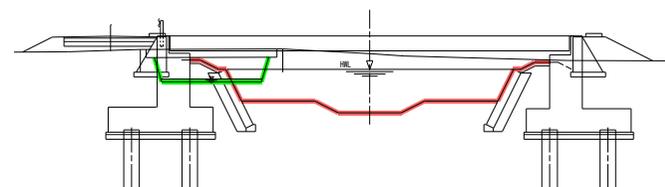
2 今後の事業進捗の見込み

- 用地取得、工事を推進し、令和15年度を目標に事業完了を図る。

前原橋上流（河道改修、橋梁架け替え）



横断面図



— 改修前の横断面
— 改修後の横断面

【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- 河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- 他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- 河川整備に必要な事業用地は28%取得済みである。また、本事業区間は市街地で沿川には家屋が密集しており、河道拡幅のみでは流下能力の確保が困難であるため、未利用地を最大限活用した遊水地群と最小限の河道拡幅による本計画が最適である。

【事業の対応方針（案）】

- 本計画で事業を継続する。